

**「明日また行きたくなる学校」目指して**

校長 佐々木 正宜

例を見ない水害と日々30℃を超える灼熱の夏を乗り越え、気がつけばもう10月。4月に、キャッチフレーズ「明日また行きたくなる学校」を掲げスタートし、生徒、教職員が協働しながら本校の教育活動を創り上げていますが、早いもので、もう今年度の半分が過ぎようとしています。「明日また行きたくなる学校」とかなりシンプルな表現になってしまいましたが、どのような学校が、「明日また行きたくなる学校」なのか、また、その実現のために、教職員がどのように取り組んでいるのかを簡単にまとめてみました。

「明日また行きたくなる学校」とは	先生たちは、こんなことに取り組んでいます
○授業が分かる。新しい知識を得ることができる。授業が楽しい。 ・学校生活のほとんどが授業です。授業の充実感こそが学校の本筋だと思えます。	○アクティブラーニング、ICT、AI、タブレットなど、今、教育現場にはかなりのスピードで新しい事やモノが導入されてきています。そのスピードに乗り遅れないよう、教職員も様々な研修や研究を行っています。ベテランの先生たちは今までの指導方法からの転換を、また、若手の先生たちは将来に向けてのスキルアップを意識するなど、教科や学年の枠を越えて、スピード感をもって学び合っています。 ○その他実践していること ・授業における目標の可視化、学び合う場の設定、振り返りの工夫 ・調査による分析や成果と課題の確認 ・学習アンケートの実施 ・教職員のステージ（経験年数）における各研修会への参加
○安全で、安心して学校生活を送ることができる。 ・友達がいる、活躍の場がある、自分のペースで学習や生活ができる、クラスが楽しい、行事が楽しい、部活動が楽しい、私的には給食がおいしいというのも欠かせないのですが…。	○居心地のよい環境（人・事・空間）づくりのため、自己存在感、共感的な関係、自己決定の場を設定することを意識し、共通理解しながら指導や支援に当たっています。 ○学校は、共同生活の場です。いろいろな楽しいこともある反面、トラブルも発生します。できることなら「未然防止」が大前提です。しかし、そうはいかないケースも多々あります。そのため、アンテナを高くし、早期発見、早期対応に心掛けています。そこで大切なのは、生徒、保護者、教職員の信頼関係とコミュニケーションと捉えています。 ○その他実践していること ・生徒主体の生徒会活動 ・校則等の随時見直し ・一斉メール配信やHPによる情報発信 ・生活アンケートの実施 ・スクールカウンセラーによるカウンセリング ・面談、家庭訪問などの個別対応 ・給食の個に応じたアレルギー対応

まだまだあるのですが、ざっくり表現すると、こういったことに取り組んでいます。学校的には最初の○を学習指導、下の○を生徒指導と表現していますが、これを「自転車」に例えると理解しやすいです。生徒が乗る人、先生がチェーン、そして、学習指導と生徒指導の2点を車輪として、前進していくというイメージです。もちろんペダルを踏むのは生徒で、行き先も生徒が決めます。さしずめ保護者は補助輪でしょうか。

さて、かなり前段が長くなってしまいましたが、この1年間にわたる自転車での旅、まだ途中なのですが、その経過を切り取って、次のページから振り返っていきたいと思います。さて、ここまでどのようなシーンがあったのでしょうか。また、今後どのようなエンディングを迎えようとしているのか、とても楽しみです

※モノクロ印刷となっていますが、カラーバージョンはHPにアップしておりますのでそちらもご覧ください。

オープニング



4月7日(金)、1年生が入学し、城東中45回目の映画のスタート。キヤッツのチフリーズは「明日学校」また行きたくなる学校。全校生徒数58人、秋田市第2位となりました。ところでみなさん、記憶にありませんか?入学式に桜が満開だったこと。【信じられない】はここから始まったような気が…。

修学旅行第1弾【3年生】



これもまた【信じられない】シリーズ。まずは1年間に2度の修学旅行。なかなかないです。その1回目の主役は3年生。場所はスカイツリー。12:30到着。各自自由に昼食をとり、14:20バス集合の弾丸スケジュール。ちなみにこの撮影時刻は13:00。ちょうどお昼時。レストラン街は激混み。しかし、誰一人遅れる事なく昼食をとり、涼しい顔して集合完了。全6クラスの大旅行団ですよ。その集団行動のクオリティの高さに悶絶。そしてまた彼らは、何食わぬ顔をして15:26上野発の新幹線に乗り込み、秋田に向かいました。腕時計を見ながら、かなりハラハラしていたのは自分だけだったのでしょか。2年生にも乞うご期待!

勝利の道はここから始まる



ある日、体育館の部活動の練習を観ようと渡り廊下を歩いた時、ふとバックやシューズが乱雑に置かれていることに気付きました。練習参観後、バスケットボール部の主将と話す機会があったので、そのことを話した次の日がこれでした。すごくないですか。主将の行動力も素晴らしいですし、それを実行に移した部員たちもまた素晴らしいです。試合の結果は言わずもがなでした。三年生が引退した今、これが全ての部活に浸透…していればいいのですが…。

城東中の応援団は日本一!



苦しくも
悲しくも
辛くも
償うかい



コロナ禍が明け、いよいよ全校が一つになって盛り上がった瞬間です。応援団長を核とし、仲間のため、心を一つに、一丸となって声を出し合う姿。まさに青春、ドラマど真ん中です。耐震工事が完了している体育館がこの地に移行がささやかれています。もしもそうだった時、この全校応援という文化はどう変化していくのでしょうか。この日本一の城東応援団の存在は…。

感動・感激・感涙・そして感謝



全校一丸となって迎えた市中総体。ここにくるまで、数々の出来事があったのではなないでしょうか。限られた時間や場所での練習、コロナウイルスとの戦い、高校生に胸を借りての練習、保護者の協力を仰いで校外練習や試合、激しいポジション争いなど、それらを乗り越え、選手は本番に臨みました。

各自結果は違えど、通ってきた道や、目指した景色は一緒だったはずですが、私が応援することはできませんでしたが、私が観た全ての試合で、監督やスタッフの指導の下、選手は躍動し、他の部員は自分の役割りを全力で遂行し、また、駆けつけた応援部隊は声をからして応援していました。その熱い姿に、会場した全ての城東中関係者は感動し、感激し、感涙していました。「4感」を与えてくれた城東中学校の全ての生徒のみなさんに感謝します。「ありがとう」

音輪心（吹奏楽部の物語）



吹奏楽部のおかげで、普段行くことのないミルハスに5回も行くことができました（城東祭を合わせたら6回）。演奏していた曲はそれぞれ違っていました、演奏がだんだん変わっていくのが素人の私でも感じ取ることができました。中総体の応援と被った中央地区大会、7.15の大水害の後の全県大会。よくぞそれら乗り越えて、素晴らしい

演奏を披露してくれたと思います。特に県大会は圧巻でした。演奏開始から、怒濤のように寄せ来る波や降り注ぐ豪雨のごとく激しく、また、ラストでは、水が引いて平穏な姿を見せたあの学校周辺の風景が脳裏に浮かびました。演奏が終わった瞬間、涙がこぼれたのを覚えています。

城東祭直前、部員にまんまと乗せられて、マツケンになり「城東サンバ」と叫んでいる光景は、その時は全く想像できませんでした。

圧巻、パネル（クオリティがさらにUP）



放課後、校内をまわっていると、2階多目的ホールでなにやら話し合う声がある…。のぞいてみるとブルーシートを広げ、一生懸命作業をしています。次の日もまた次の日も、楽しそうに活動していました。どんな作品ができるのだろうと楽しみにしていましたが、素晴らしいパネルとなりました。今は、体育館後方に飾られています。とてもクオリティと完成度の高い作品です。



ステージ発表也大盛況



脈々と伝統を引き継ぐ「城東太鼓」の圧巻の演奏。それに負けじと先生方も大ハッスル。2日目のステージ発表も最高の盛り上がりを見せました。

柴田先生に合唱コンクールを総括してもらいました

合唱指導で私が心掛けていることは、「大声を出すことは恥ずかしくない！カッコいい！」という雰囲気をつくることです。時には一人で歌う勇気がある生徒が出てきてソロで歌い、皆で声を称賛し合いながら、4月からコツコツと雰囲気を作り上げていきました。そして、歌詞に思いを込め、身体全体で表現するという徹底して生徒に呼び掛けていきました。

本番の合唱は、「技術を超えた表現」が多く見られました。音程や発声、パート間のバランスといった技術面の課題はあるものの、そんなことがどうでもよくなるくらいの溢れんばかりの表現で、会場を感動の渦に巻き込みました。

全18学級の合唱を見届け、音楽科教員として「生きていてよかった」と本気で思えた日でした。

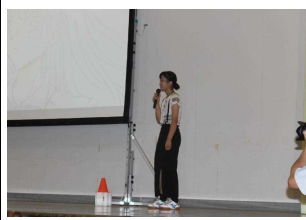
（音楽科主任 柴田 拓朗）

ミルハスの楽屋の一室で自分は、拓朗先生の「生きていてよかった」の真逆の「生きているのがつらい」思いをしていました。3年生の合唱の質があまりにも高すぎて、甲乙を付けることがあまりにも困難だったからです。全クラス優秀は審査員全員一致でなんとか解決。しかし、最優秀を一組決めるのでもかなり難航しました。最終的に2クラスまで絞られたのですが、4人の審査員が2対2に別れ、「最後は校長判断ですね…」とキラーパスが。結果は【信じられない】の最優秀2クラス。しかし、表彰の時の会場の様子で、結果オーライを確信しました。

城東中って芸能プロダクション？（プロ顔負け！シンガーやらダンサーやらお笑い芸人やら続々登場）



会場が大熱狂！スペースの関係で、全て紹介できませんが、登場するスターの卵たちのクオリティの高さに脱帽！即戦力です。転職してJOTOプロダクションの代表取締役になろうかと思ってしまうしました。



4年部の先生方に前学期を振り返ってもらいました

後学期もよろしくお願いします

今年度は太平中との統合によるスクールバスの運行、制約のない形での学校行事の実施、城東祭・合唱コンクールの平日開催など、新しい歩み始めるものがありました。また、ようやくPTA専門部も活動を再開し、学校行事への参画や会報編集作業を進めることができました。一方、七月の豪雨による避難所開設、九月の冠水による下校時の学校待機など、緊急対応を強いられる場面もありました。地域・保護者の皆様と一層協力を密にしながら、安全・安心な学校づくりを進めていく必要があることを実感しました。

(教頭 熊谷 直邦)

今年度前半の行事について

3年生だけではあるものの、在校生と共に新生を迎えた入学式。関東圏へ2泊3日の行程で実施した3年修学旅行。応援団の大歓声が競技会場に響き、選手の活躍を後押しした中総体。天候の悪化により、急遽テント泊から館内泊へと変更になったものの、宿泊を伴った1年まんたらめ宿泊研修。初利用のミルハス大ホール、人数制限なく保護者を招いた城東祭・合唱コンクール等、たくさんの行事が、コロナ禍以前の様子を徐々に取り戻してきました。一方、コロナ禍で得たりモートを取り入れた全校集会も、城東祭準備集会で実施しました。

今後も、単にコロナ禍以前に戻る発想ではなく、これまで得た知見を生かし、目的に応じた方法を生徒と共に検討し、工夫した生徒会行事や学校行事を展開していきます。

(教務主任 池田 裕)

学習について

研究主題「学び合う活動を通して、高め合う生徒の育成」の取組が6年目に入りました。生徒アンケートの結果で、「学び合う活動が自分の考えを深めたり、広げたりすることにつながっている」と肯定的に回答する生徒がほとんどであることから、先輩から受け継がれてきた「大いなる城東の心」を意識し、集団の中で他と関わりながら学習活動にも意欲的に取り組んでいるといえます。

今後も、生徒が互いに質問し合ったり、教え合ったりするなどの生徒が互いに高め合う授業イメージを共有し、実践することで、目指す生徒像「自ら学び行動できる生徒の育成」につなげたいと考えます。

(研究主任 小松 ゆみ)

生活について

今年度も、【「何を伝えたか」より「どのように伝わったか」を確かめながら指導あたる】を職員の共通実践事項として、生徒の主体的な活動を支えるために、日々指導にあたっています。

城東中の生徒は素直で、落ち着いた学校生活を送っています。朝は8時10分に登校が完了し、整然と朝読書や朝学活が進められています。授業では、開始3分前に着席し2分前自学を開始しています。こうした姿から「時間を守る」や「委員会活動へ協力する」など規範意識の高まりが見られます。

今後も、日常生活や諸行事を通して、生徒自ら考えて行動し、様々な体験を通して自信を付け、積極的に挑戦していこうとするたくましさをも身に付けてほしいと願っています。生徒を温かく見守りながら、一人一人の成長をサポートしていきます。

(生徒指導主事 佐々木 智裕)